

グローバル化下における持続可能な 社会の形成に参加する授業開発

地歴・公民科 田中博章

グローバル化下の産業と貿易に関して、経済・倫理・環境・文化・伝統などの多面的視点から内容開発をすることを目的とする。¹従来、貿易に関しては、比較優位をもとにした自由貿易を基軸として、経済的見方考え方の育成が目指されてきた。今回の取り組みでは、グローバル化を前面に、「援助と開発」の側面から「産業と貿易」の内容構成再編を試みる。ここでは、「なぜ援助が必要なのか」、「開発支援はどのようにあるべきか」の因果関係と価値判断が伴う課題を設定し、フェアトレード・スエットショップ・マイクロファイナンスなどのトピックを扱う。また、「開発と援助を巡る論争」として、イースタリーとサックス²、バグワティとセン、シンガー³とロールズの論争あるいは対立的視点をとりあげ、ワークショップ型授業開発を行う。

< キーワード > グローバリゼーション 開発支援 フェアトレード ワークショップ型授業

1 南北問題から南南問題

1960年代から南北問題の解決に向けて重要視され、先進国による援助が始まり、約50年が経過したが、それでも解決の兆しが見えず、さらには南南問題というように格差が拡大している。南北問題の解決策として、DACやUNCTADなど様々な機関が設立され、開発途上国に対し様々な援助がなされている。ODAによる借款だけでなく、無償援助も行われている。

しかし、援助する側にも資金や人員、知識、経験には限界はあり、政治的、文化的、社会的に様々な困難も伴う。だから様々な機関を通じて、または二国間で、実に様々なアプローチからの援助がされている。しかし一気に解決する万能薬は残念ながら存在しない。さらに支援の手すら届いていない地域もある。1990年代には、先進国による「援助疲れ」と呼ばれる現象が蔓延した。

このような格差の拡大の要因の一つには、グローバリズムや行き過ぎた自由化により、もともと市場の優位性に欠ける途上国の競争力をさらに奪ったこともあげられる。これに対し、FAOが主催し、20以上の国連機関やパートナー団体と協力して行われ、150カ国から600人以上の代表が集まる第4回世界南南開発年次博覧会（南南博覧会）⁴が2011年12月5日、ローマで始まった。会議は複雑な食料安全保障の課題に向けた成功事例や革新的な解決策を交換し、拡大するために、南南博覧会のテーマは、「世界の南」が持続的で公平な開発を達成するという共通の望みを実現するのを助けるという潘基文事務総長の強い決意への具体的な対応としての解決策があげられた。レベッカ・グレイspan国連開発計画副総裁は、増大する能力と地域統合が経済発展を促進するとともに、南南の金融フローや技術、貿易は、新興経済大国がとりわけ大きな役割を果たしつつ、著しく伸びてきたと述べた。

2 貧困からの脱出

多国籍企業の直接投資は、それ自体は途上国の発展につながるケース、NIEsや東南アジアは外資

主導で経済発展を遂げた。一方では、行き過ぎた低価格競争に勝つための途上国への投資が、労働基準の低さに付け込んだような労働搾取・児童労働に繋がっていた例などある。

【図1 資本蓄積の基本的なメカニズム】

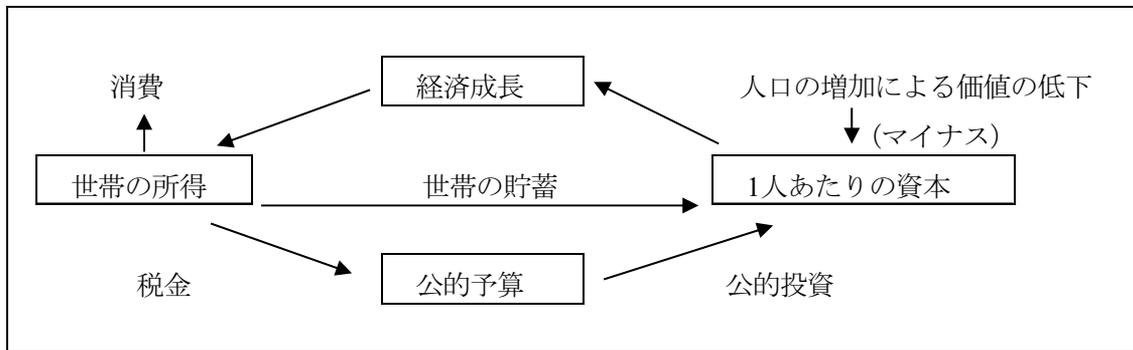


図1⁵は、典型的な世帯の例である。この世帯の所得は、消費と税金と貯蓄に分けられる。政府は、税金の使い道を経常収支と政府投資に分ける。この経済の場合、資本蓄積は世帯の貯蓄と政府投資によって増やせる。資本蓄積の額が上昇していくと経済成長につながり、経済成長によって世帯の所得が増える。経済成長の恩恵が所得増という形でフィードバックされるからだ。この図では、資本蓄積へのマイナス効果として、人口増加と資産の目減りがあげられている。「正常」な経済では、順当に所得が増えていくプロセスをたどり、世帯の貯蓄と政府投資は人口の増加や資産の目減りの先を行くのが普通である。

【図2 貧困の罠】

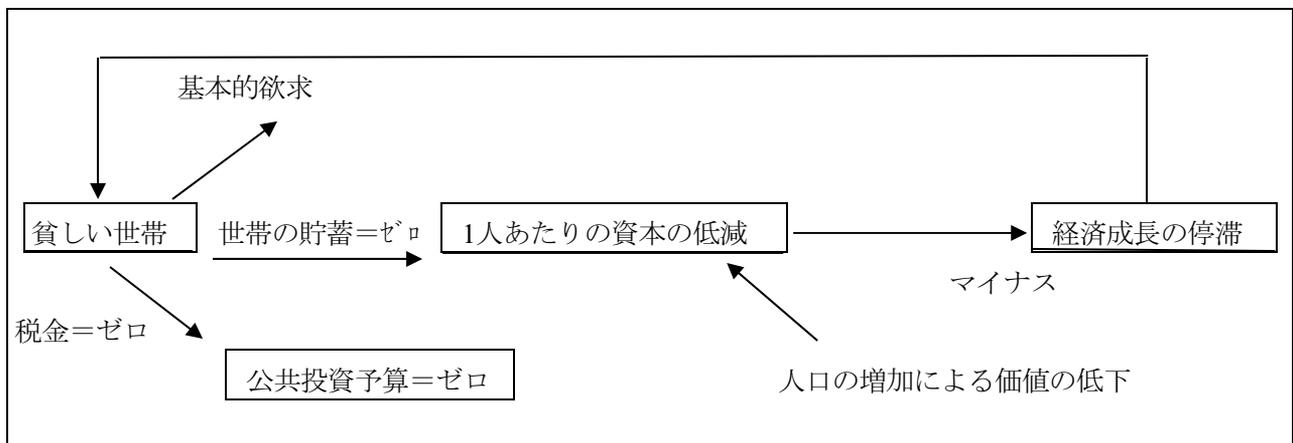


図2⁵では、このプロセスがうまくいかず、貧困の罠に陥る。この世帯は貧しい。所得はすべて生きるための消費に使われる。税金は払えず、貯蓄もできない。それでも資産の目減りと人口増加は容赦なく続く。その結果、1人あたりの所得もマイナス成長になる。これが続けば、世帯はますます貧しくなる。

【図3 貧困の罟から抜け出すための ODA が果たす役割】

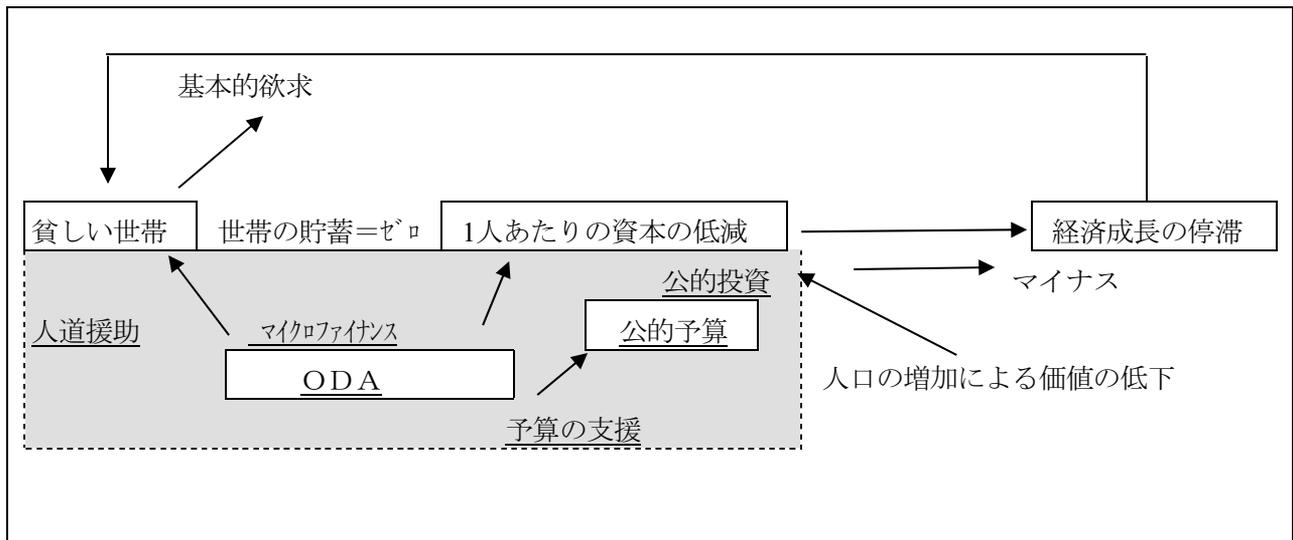


図3⁵は、図1,2における解決策である。ここでは、対外援助が ODA（政府開発援助）という形で介入し、資本の蓄積、経済成長、世帯の所得増というプロセスの後押しをしている。対外援助はおもに3つの経路で与えられる。つまり、貧困の罟から抜け出すためには、ODA（政府開発援助）による人道支援と公的予算の支援、さらには貧しい世帯が自立していくためのマイクロファイナンスによる連携である。しかし、貧しい国が貧しい要因は様々である。ではどうしたら貧困から抜け出すことができるのか。お金をあげれば良いのだろうか。それでは依存心を生むだけかもしれない。なんとか学校に行くようになって卒業して就職を得るのはもっと先になる。学校がないかもしれない。あるいは労働に見合った対価を得られるような産業がないかもしれない。食べ物も土地がやせては育たないのかもしれない。また、貧しいところほど衛生事情は悪くアフリカのエイズのように病気が蔓延し、健康不良で学校や働くことができないかもしれない、でもそれ以前に医療へのアクセスがないかもしれない。さらには政府が内戦状態だったり、独裁だったりすると、こうした人々に対する配慮が全く行き届かない。どこから手をつけていいのかわからない状態である。このような「貧困の罟」つまりはジレンマに対しては、ある一定の効果的な方法がある訳ではない。その国や地域にあった支援の方法を考え、実態に即し柔軟に対応できる体制づくりが必要である。

3 高等学校公民科・地理歴史科における授業開発

1、2を通して、南北問題、南南問題、ODAの役割などを取り上げて授業を行う際に、高等学校では、公民科の現代社会と地理の単元構成の関わりが大きい。そこで、現代社会では、「南北問題など国際社会における貧困や格差」について、南北問題や南南問題などを取り上げ、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることを理解させるとともに、先進国の経済協力の在り方について考察させる。また、地理においては、「現代世界の貿易の現状と課題」について現代世界の貿易と経済圏に関する地理的事象から経済のグローバル化などの課題を設定し、追究するとともに国家間の結び付きを地理的に考察させる。また、地図化してとらえる南北問題や南南問題について、生活基盤や教育をめぐる問題を考察させる。ここでは、現代社会の授業開発を以下のように考え、実践を行った。

現代社会 単元 「共に生きる社会を目指して」

ねらい 持続可能な社会の形成に参加しよう

・私たちが日本や世界の人々、また将来世代の人々との関係のなかで生きているという認識のもとに、様々な事象を考える。「持続可能な社会」という観点から、①個人と社会、②社会と社会、③地球市民として生きる「幸福、正義、公正など」の理解にもとづいて課題追究型の学習を行う。

①個人と社会

「マイクロクレジットによる貧困の脱出」

・マイクロクレジット⁶はバングラデシュのグラミン銀行が起源と言われている画期的な仕組みである。発展途上国にかぎらず、先進国にも増えている。グラミン銀行の場合は貧窮のどん底にある人々（ほとんどは女性）が個人事業に従事し、収入を得て、貧困を脱することを可能にさせ、成功を取めている。手法の特色としては、極少額の返済、グループに対して貸付けし、返済を怠るとグループ全体が連帯責任を負う制度つまり定期的返済などが主な特色である。近年は先進国にも広がっている。世界中でマイクロクレジットを実施する多くの団体では女性が主な対象となっている。これはおそらく、女性への貸し付けは男性への貸し付けよりも家族全体に恩恵をもたらすことが多いという傾向からきている。また女性に小額貸付の管理をさせ、責任を持たせると社会経済上の地位が向上する。これは女性の地位に肯定的な変化をもたらすとみなされている。

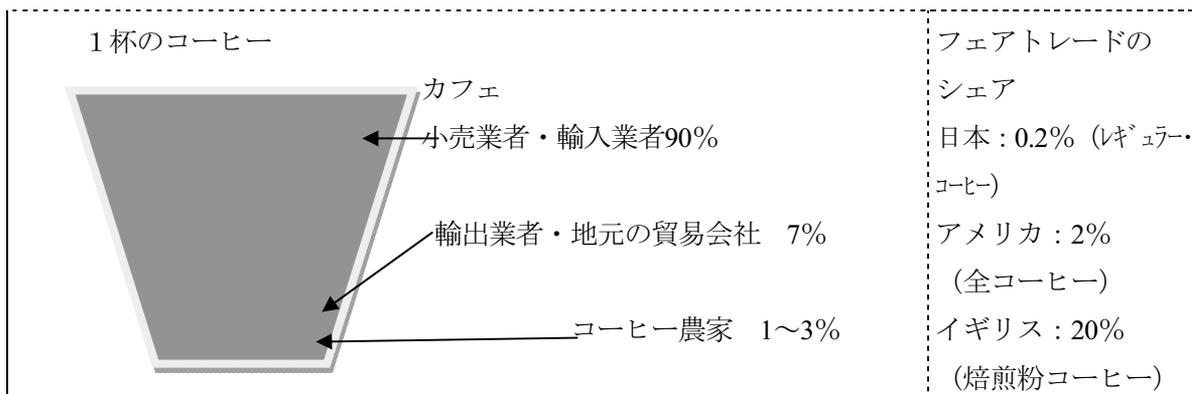
このような「マイクロクレジット」について生徒がどれくらい知っているか事前調査のアンケート⁷を行うと8割を超える生徒が知らないと答えている。そこで、生徒自らがさまざまな資料から調べることにした。そこで用いた学習方法として、文献調査やipad（ICT）を活用して調べ学習を行った。

②社会と社会

一杯のコーヒーが出来上がるまで

～生産者と消費者を結ぶフェアトレード⁸

・世界中のコーヒー価格は、ニューヨーク商品先物市場での価格動向、取引動向に強く影響を受けている。加えて国際コーヒー機構の輸出割当制度が1986年に廃止され、その後のベトナムなど新興生産国の大量生産の影響を受けてコーヒー価格は暴落した。また、コーヒーを生産国と消費国の関係からみれば、生産国は途上国で消費国は先進国である。コーヒーの価格は、ニューヨーク（アラビカ・コーヒー）と、ロンドン（ロブスタ・コーヒー）での先物相場によって決定される。2001年から2003年の間、コーヒーの価格は30年間の中で最低まで落ちた。エチオピアは最貧国のひとつであり、現在はこの20年間でも最も緊急支援に依存している。平均して年間700万人の人々が、緊急支援を必要としている。アフリカの国際商取引の割合が1パーセント上がるだけで、年間700億円を生み出すことができる。これは、この大陸が現在支援で得ている額の5倍に当たる。フェアトレードとは、発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することを通じ、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す取り組みである。日本でのフェアトレードのシェアは、レギュラー・コーヒー市場において0.2%程度。イギリスでは焙煎粉コーヒーの約2割、アメリカで全コーヒーの約2%がフェアトレードになっている。



コーヒー生産者側からするとどれだけ良質なコーヒーを作っても、従来型の貿易の形では、生産者は時には生産コスト以下の金額しか手にすることができない。コーヒー仲買業者の言い値でコーヒーを売らざるを得ない状況が多く、子どもたちに十分な教育や医療サービスが行き渡らない状況が多く存在する。しかし、フェアトレードの理念は、高品質なコーヒーに見合ったお金を生産者に保証することにより、持続可能な農法を支え経済的自立への道を開いていく。今回はフェアトレード & ビーンズショップでいろいろ話を聞いて、フェアビーンズコーヒーのこだわり、次の3つのサステイナブルなコンセプトをできるかぎり追求している点に目を引いた。まず第一に、小規模コーヒー生産者の生活の向上を促すこと、これはほとんどのコーヒー生産者が小規模であることを実感させられた。私たちは大きなメーカーの生産者しか知らないが実際は大半が小規模である。第二に、自然環境と共生した持続可能な栽培を行っている点である。言い換えるとオーガニックであるということである。そして最後にシェイドグロウン（日陰栽培）である。コーヒーの木は繊細で母なる木を要する。渡り鳥の聖域である熱帯雨林を守りながら栽培されている。

「フェアトレード」が「開発」と「ビジネス」、「援助」と「貿易」の融合形態だからである。これまで、途上国と先進国を結びつけるルートは国家間の「援助」か「貿易」がおもなものであった。フェアトレードはこの両者のハイブリッド型といえる。フェアトレード隆盛の背景として、地球規模での経済関係の緊密化、いわゆるグローバル化の進展に対して多くの人が抱いている懸念がある。現在の国際貿易システムが、途上国の貧しい生産者にとって不利であって「公正ではない」という認識は先進国からも表明される。その根拠として指摘されるのは、零細農民がコーヒーなどの輸出換金作物に依存していると、国際市況の悪化で生産コスト割れの販売を強いられることもあるといった「飢餓輸出」の問題も不公正貿易論の根拠となっている。アンケート結果⁷によると、フェアトレードについて知っている生徒と知らない生徒の割合は半数である。知っている生徒でも詳しく知っている生徒は多くない。また、コーヒーの原産地や栽培方法なども知っている生徒と知らない生徒の割合は約半数である。コーヒーは日常的な飲み物に対して、その栽培や原産地について興味関心があまり高くなく、⁷授業で取り扱う必要がある。

③ 地球市民として生きる

・これまで学習してきた知識や認識をもとに、「幸福・正義・公正」の観点から、いかにして実際の生活の中でよりよくしていくのかを考察する。これまで学習してきたことを基に、近未来に実際に起こりえる場面を設定し、どう行動するか考える。学習方法として、「シミュレーション」と「ロールプレイ」を組み合わせて行った。⁹

フェアトレードの商品を実際に生徒が扱う場面は、文化祭の食品バザーである。そこでモデル化、

単純化して、それを擬似的に体験する。フェアトレードを擬似的に体験することで、問題を明らかにするとともに、生徒がここではそれを「実感」として認識するための有効な手段として、シミュレーションを用いる。ロールプレイは、合意形成や他者受容、そのためのコミュニケーションなどの能力を高めるためのトレーニングになる。そこで、生徒がだれでも知っている「ドラえもん」のアニメ¹⁰に登場する人物として役割を演じさせ、それぞれの人物がどう考えて行動するかを想定して、ロールプレイ場面を次のように設定して行った。

「フェアトレードのあり方について考える！」

◆今まで学習してきたことを振り返って次のシミュレーション・ロールプレイをしてみよう◆

☆シミュレーション場面☆

2017年、A高校の文化祭で3年A組は、食品バザーを行うことになった。担任のドラえもんは、現代社会の授業で教えた「フェアトレード商品」を扱うことをA組生徒に説明した。(ドラえもん役:説明のセリフを考える)

ドラえもんの説明を受け、HR委員であるのび太は、フェアトレード商品のコーヒーとチョコレートを扱い、コーヒーショップを開くことを提案した。(のび太役:提案のセリフを考える) のび太の説明に多くの生徒は納得したように見えたが、スネ夫は、生徒会の予算だけでは赤字になり、A組の全員でお金を出し合わなくては出店できないことを言い、フェアトレード商品を扱わないコーヒーショップを提案した。(スネ夫役:説明のセリフを考える)

スネ夫の説明を聞いたとたん、ジャイアンが叫んだ。「お金を負担するのはいやだ!楽しくやりゃいんだよ!」(ジャイアン役:セリフを考える) ジャイアンが話した後、しずかは、ジャイアンに対して、「楽しむだけが文化祭ではないわ。せっかく現代社会で学んだから私は、次のように提案するわ。(フェアトレード商品を文化祭で扱う意義、売れるようにPRを考える)」(しずか役:説明のセリフを考える)
(※ただし、生徒会からの支援金は4千円とする。フェアトレード商品のコーヒー、チョコレートの原材料200人分4万4千円とする。利益が出た場合は、諸団体に全額寄付することになっている。) この5人の意見を聞いた後、学級全体で話し合うことになった。さあ、残された時間は15分である。あなたはどのように考えますか。

☆自分の役のセリフ(例)

(ドラえもん役)

「生産者に適正価格で利益が貿易に関わった人たちに平等にお金が渡るように値段を取引して売買するフェアトレード商品を扱った食品バザーをします。」

(のび太役)

「200人分のコーヒーとチョコレートが売れるようにフェアトレード商品を使ってコーヒーショップを開きましょう!」

(スネ夫役)

「お金がかかるため、利益が出せなくなるから、利益が出せるように一般の商品を扱おう!」

(ジャイアン役)

「なんで僕たちが金を負担してまで食品バザーを開かなければいけないのだ。生徒会の支援金で収まるようにやろう!」

(しずか役)

「それは間違っている。この文化祭は私たちのためにやるのではない。フェアトレード商品を知らない人にもっと知ってもらいましょうよ。」

(観察者の記録)

全体的に先生の提案に賛成しているような意見で良かった。一人一人に対して詳しく話していた。

(学級会での意見記録)

☆学級会を聞いて、代案はないのだろうか？あるとしたらどのような案が、国際協力に貢献する文化祭の食品バザーになるのだろうか？☆

『フェアトレード商品を扱う派』

「フェアトレード商品を知らない人に教える良い機会であり、自分たちもその準備をする中で勉強することができる。コーヒーとチョコレートだとお金が足りなくなるなら、フェアトレード商品にはバナナもあったので、チョコバナナを売るか分量を減らし、工夫すれば良い。」(A)

「フェアトレード商品を扱っている店だということをアピールして、なぜこんなに価格が高いのか考えてもらう。市販品との価格の差がそれだけ途上国の人が不利益な貿易をさせられていることだと実感してもらいたい。」(B)

「世界の学校に行けない貧困の人たちを助けるためだから」と言って生徒会に交渉する。または商品の数を減らして予算内でフェアトレード商品を使って食品バザーができると思う。(C)

「コーヒーだけでなく、多くの商品も見せたり説明したり話すだけでなく、絵本にしたり、学校に行けない子どもの現状を教えるために演技をしたりするなどして少しでも詳しく知ってもらう。」(D)

「授業でやったようなフェアトレード商品の試飲試食ならお金もあまりかからないし、フェアトレード商品のことも知ってもらえるので実際に販売するのではなく試飲試食の方がよいと思う。」(E)

『フェアトレード商品と一般商品を同時に扱う派』

「フェアトレード商品のコーヒーショップを開くにしても、すべての商品をフェアトレードのものにするのではなく、普通の日本に売っているコーヒーやチョコレートを一緒に販売すればよいと思う。」(F)

「フェアトレード商品は価格も高く生徒からお金を集めることになるのでフェアトレード商品を知ってもらうため冊子やVTRを使用する。フェアトレード商品のチョコレートやコーヒーと普段私たちが購入しているものの値段の比較や劣悪な環境のもとで働いている人たちもいるという現状をより多くの人に知ってもらう。その際に募金を集めて発展途上国に寄付する。」(G)

「反対意見の人は、「お金を出すのがいやだ!」と言っているのだからたくさんの人に買ってもらうようにすればよい。そのために、フェアトレード商品がどういうものか知ってもらうための工夫が必要だと思う。」(H)

『一般商品を扱う派』

「フェアトレード商品を扱わないで、一般の商品を販売し、利益を追求してその利益をアフリカや貧困で困っている人たちに送る。そうすれば自分たちの出費も抑えられるし、みんなが頑張れるから楽しいし貧困で苦しむ人たちにもお金がいくと思う。」(I)

「フェアトレード商品のコーヒーショップだとお金がかかりすぎる。しかし、一般のコーヒーにするとフェアトレード商品についてあまり知ってもらえない。そこで、フェアトレード商品のコーヒー、チョコレートの量を減らし、1人当たりの食品の量を半分にし、値段も半分にする。フェアトレード商品について学んだことをまとめたり、説明したりする。」(J)

「自分たちがフェアトレード商品を買うこととお客さんにフェアトレード商品について知ってもらうことで2つ貢献できる。また、実際に自分たちが価格の高いフェアトレード商品を販売する難しさを実感し、今後どのようにしていくのか考える。」(K)

4 まとめ

持続可能な社会の形成に参加する授業開発を目指して、今まで学習してきたことを振り返ってシミュレーション・ロールプレイの学習方法を取り入れ、「フェアトレードのあり方について考える!」授業実践を行った。最終的な学級会での結果は、クラスで違う結果が得られた。つまり、過半数で採決をしたが賛成、反対に分かれた。このことは、実際の社会において「フェアトレードの商品」の普及状況の実情を表していると考えられる。つまり、理屈で分かっている、実際の生活場面では、金銭的な理由や「フェアトレードの商品」を購入することだけが南北問題や南南問題の貿易開発につながらないと考えるからであろう。本実践においては、学習方法においてシミュレーション・ロールプレイだけでなく、文献調査や調べ学習などを通して生徒に現状の開発途上国の貧困問題に迫ることができた。しかし、単に実践を行うことだけでは生徒一人一人が問題意識を深め、学習を行うことは難しい。いかに他の科目と連携して取り組むことができるかまた実践を継続的に行うことができるかが重要である。今後は、地理の授業において南北問題や南南問題における貿易について取り上げ授業開発を行い、地歴科と公民科における連携を図り、持続可能な開発に向けての取り組みや在り方について考えさせたい。

注、参考引用文献

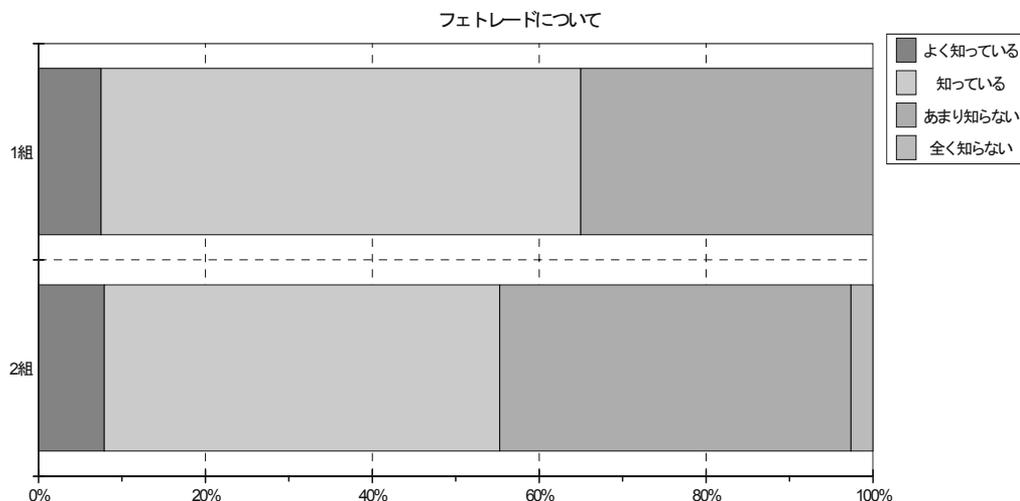
- 1 第26回日本公民教育学会全国研究大会(東京大会)ラウンドテーブル②グループ7「グローバリゼーション下の産業と貿易」平成26年度、27年度、28年度文部科学省科学研究費基盤研究(B)代表者筑波大学唐木清志、グループ7代表者日本体育大学猪瀬武則の下、グループ研究として行っている。
- 2 「貧困の終焉ー2025年までに世界を変える」ジェフリー・サックス著 早川書房
- 3 「グローバリゼーションの倫理学」ピーター・シンガー著 昭和堂
- 4 「南南博覧会は食料不安への問題解決策の紹介」国際連合食糧農業機関(FAO)日本事務所
<http://www.fao.or.jp/index.html>
- 5 「貧困の終焉-2025年までに世界を変える-」ジェフリー・サックス著 早川書房より一部改定
- 6 「グラミン銀行を知っていますか: 貧困の女性の開発と自立支援」坪井ひろみ東洋経済新報社
- 7 生徒に予備調査としてアンケートを行った。その結果は以下の通りである。

結果

1年1組 対象 40人、1年2組 対象 38人

1 あなたは、フェアトレードについて知っていますか。

	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない
1-1	3人 (2.5%)	23人 (57.5%)	14人 (35%)	
1-2	3人 (7.9%)	18人 (47.3%)	16人 (42.1%)	1人 (2.6%)

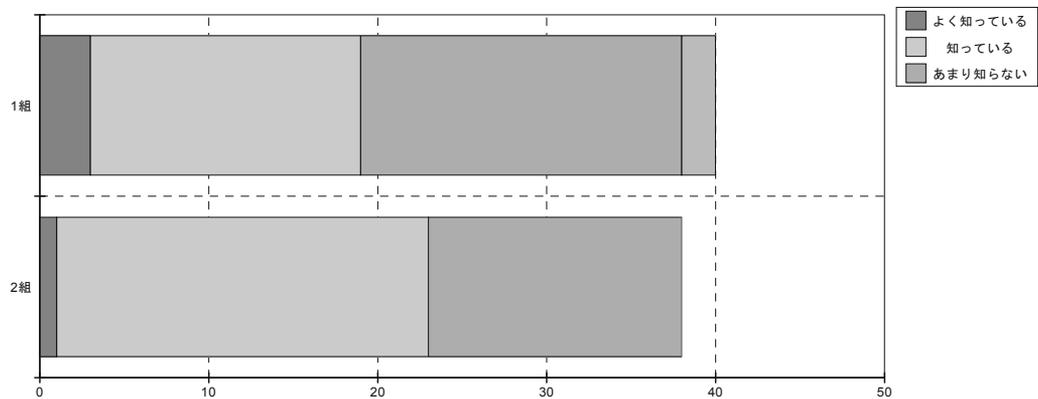


2 1で知っている、よく知っていると答えた人に聞きます。あなたが知っていることを書きなさい。

- 1-1 フェアトレードマーク。ちょっと高額、貧困層の人たちにも適正価格で利益が得られるように。公正な価格で取引。フェアトレードの基準が決まっておらず、あまりよくない
- 1-2 学校に行けない子どもがフェアトレード商品を買うことで行けるようになる。フェアトレードマークがついている。生産者に適正価格で利益貿易に関わった人たちに平等にお金が渡るよう値段を取引して売買

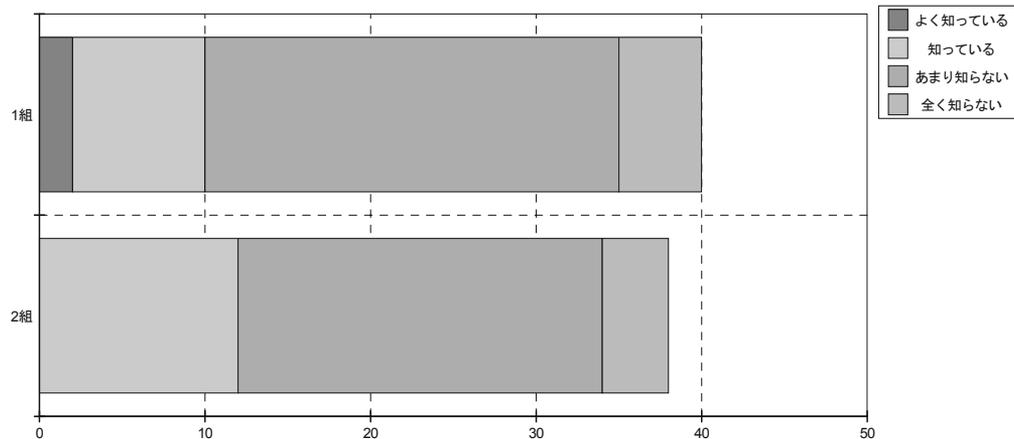
3 あなたはコーヒーの栽培や原産地について知っていますか。

	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない
1-1		15人 (37.5%)	24人 (60%)	1人 (2.5%)
1-2	1人 (2.6%)	20人 (52.6%)	17人 (44.7%)	



7 あなたは、南南問題について知っていますか。

	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない
1-1	2人 (5%)	8人 (10%)	25人 (62.5%)	5人 (12.5%)
1-2		12人 (31.5%)	22人 (57.8%)	4人 (10.5%)



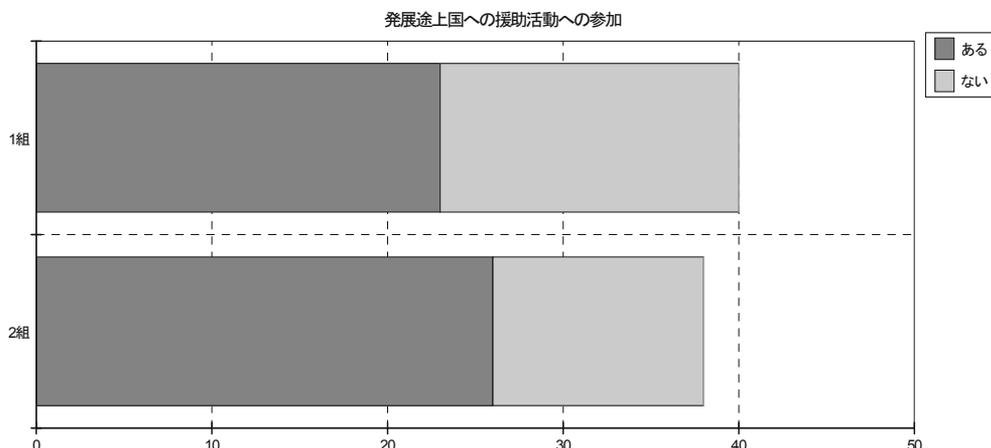
8 7で、よく知っている、知っていると答えた人に聞きます。あなたが知っていることを書きなさい。

1-1 南半球内でも経済格差、発展途上国内で経済格差

1-2 発展途上国内での経済格差

9 あなたは、発展途上国など貧困に苦しんでいる人々や地域・国々に対して何か援助行動をしたことがありますか。

	ある	ない
1-1	23人 (57.5%)	17人 (42.5%)
1-2	26人 (68.4%)	12人 (31.5%)



10 9であると答えた人に聞きます。それは具体的にどんなことですか。

1-1 募金 20人 古着回収 エコキャップ 文房具

1-2 募金 19人 文房具回収 8人 エコキャップ 3人 フェアトレード 商品を優先的に購入

1人

8 「フェアトレードを学ぶ人のために」佐藤寛編著 世界思想社

9 「シミュレーション」と「ロールプレイング」の手法を組み合わせ、「シミュレーション・ロールプレイ学習」と筆者は名付けている。今までの実践例としては、「宇宙開発ゲーム」(小学校社会・高等学校公民科政治経済:内容は21世紀の半ば、宇宙ステーションにおける実験開発を巡って、地球益、国益、企業益のいずれを選ぶかワークショップ型の授業カリキュラムを作成し、実践を行った。)、 「ガマのジレンマ」(高等学校地理歴史科日本史:沖縄の修学旅行を活用して、沖縄戦のガマへの襲撃に対して、アメリカ軍がガマにいる日本人たちに出てくるよう呼びかける。中には、傷を負った日本軍兵士、現地住民、大人、子どもなどの立場に分かれてどう対処するか戦争の追体験を行うワークショップ型の授業開発)などのワークショップ型授業開発を行った。

10 「ドラえもん」は、藤子・F・不二雄原作の漫画作品、および登場キャラクター名。青い猫型ロボットであるドラえもんがポケットから取り出すひみつ道具と、のび太、しずかちゃん、ジャイアン、スネ夫といった登場人物たちが巻き起こす騒動を描いたギャグ作品で、国民的な知名度・人気を誇る。今回はその代表的な役柄を通じて、賛成、反対などの意見をそれぞれの性格から考え、実際に近未来に起こりえる場面、文化祭の食品バザーでフェアトレードの商品を扱うかどうかを考えさせるワークショップ型授業を構想し、実践を行った。